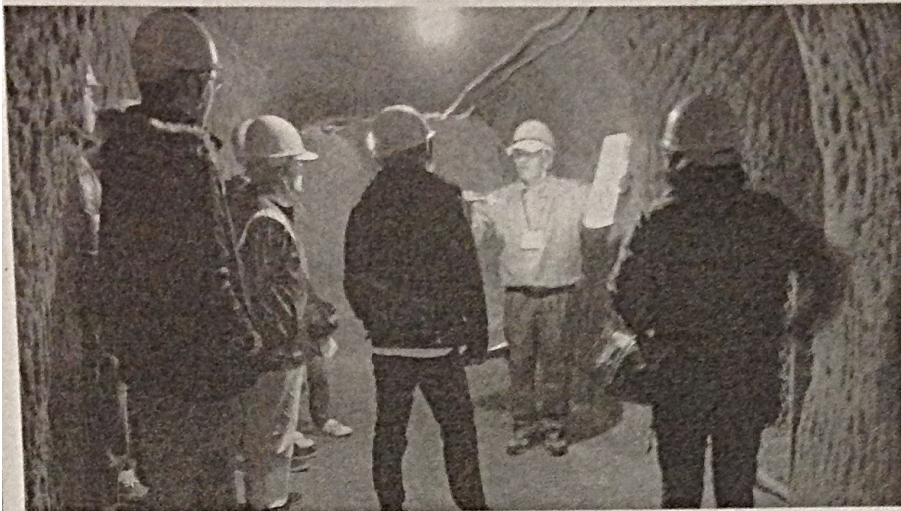


館山の戦跡 伝え続け10年



若者のグループに説明するガイド(奥)(2月、赤山地下壕跡で)

無料でガイド 案内3000人

地元のNPO

館山市指定史跡「館山海軍航空隊赤山地下壕跡」で地元のNPO法人「安房文化遺産フォーラム」(愛沢伸雄代表)が行っている無料ガイドが、今年で10年になった。毎月第1日曜日の活動で、これまでに案内を受けた来場者は約3000

0人に上る。戦後70年の今年はその数もさらに増えそうだ。

赤山地下壕は戦後ずっと放置されており、人が住み着いてキノコ栽培が行われた時期もあった。一級品の戦跡価値に気づいた愛沢さんが、2002年頃から保存運動としてガイドを開始。04年に保存に賛同する仲間らと同フォーラムを発足させ、ほかにも市内に残る洲ノ埼海軍航空隊射撃場跡や館山海軍航空隊掩体壕などの戦跡を巡るツアーガイド(有償)を始めた。

赤山地下壕で無料ガイドが始まったのは、市史跡に指定された05年から。もっと市民に関心を持ってもら

うのと、メンバーのガイドの実地訓練のためだった。市が管理する壕への入場は有料だが、ガイドは無料で受けられる。個人や団体など案内の希望者は平均20、30人、多い時には50人も集まる。いくつかの班に分かれて、同フォーラムのガイドが30分から1時間かけて壕の内部を案内する。

若手ガイドの館山市の女性会社員(40)は「戦争体験がない難しさはあるが、だからこそ勉強の場になる。地元の人が赤山に関心を持ってくれた時が最高にうれしい」とやりがい語る。

愛沢さんは「負の遺産と言われていた壕が、市の史跡になり、文化財としてまちづくりにかされるようになり、感慨深い」と、10年を振り返る。



館山海軍航空隊赤山地下壕跡 全長約1・6

6キロの全国的に見ても大きな防空壕で、館山市を代表する戦争遺跡。終戦の日まで工事が続いたと

される。旧館山海軍航空隊の基地司令部や発電所、病院などが計画され、一部使用されていた。市の所有で、入壕料は一般200円。